

# 外国語のススメ LL研究室

—●13●—

英語

奥原宇 文学部教授

engrish.com という珍妙な誤用英語を集めたサイトがある。engrish というつづりを見ても分かる通りこれは日本人による英語の誤用を茶化した造語だが、現在では必ずしも侮蔑的な語彙とはされていないようだ。

そこではさまざまな珍妙な英語が写真付きでアップされている。クスッと笑って楽しめるもの、つい詮索したくなる英語教師のサガが悲しい。数年前そのサイトに、ある日本のホテルの掲示が



(http://www.english.com/2009/page/38/)

## 機械翻訳の落とし穴

掲載されており、目にとまった。

そこには日本語とそれを翻訳したらしい英語の掲示が並べられている。「喫煙されるお客様へ、お願い」というタイトルのもと、「煙が外に出ないためにもエリア黒枠内で喫煙のご協力を宜しく願います」と日本語があり、その下に英語で、It asks the customer from whom it smokes./ So that smoke should not go outside/ It smokes in the obituary of the area./ Please continue your favors toward cooperation. とある。これを見て私はこれは機械翻訳の仕業だとふと気づいた。試しに上記の日本語をネットの無料翻訳サイトで翻訳させてみると案の定4つの翻訳サイトのうち、2つがここにあるものとはほぼ同じ英文を出してきた。

機械に翻訳させたものをそのまま公の目にさらすことを躊躇わないホテルの神経も相当なものだが、多少なりとも英語を学んだ者なら、出てきた英文を見ればどこかおかしいくらいのは気づいてほしいものだ。上記の掲示の日本語そのものが舌足らずな感はいないが、それをさておいても、機械が理解しやすいように日本語を手直してフィードすればもう少しましな英文がでてくるはずである。

※全文はLL研究室ホームページで

# 防災、スポーツ振興に ワンセグ有効活用へ



▲ 川崎市総合防災訓練=9月2日、あさおふれあい広場

専修大学と川崎市、富を結んだ。今後は地域活通、かわさき市民放送性や防災の分野での活用(かわさきFM)は9月を視野に広げていく。川崎市以外の3者は、11日、エリア限定ワンセグ放送の地域での有効活用を検討するため、協定案の「生田キャンパス周辺エリアワンセグ情報配信サービス」が総務省所管のホワイトスペース試験に認定され、競争の魅力を紹介します。9月29日、川崎球場で富士通フロンティアアースと東京ガスクリエイターズとの試合を放送した。さらに、10月22日(月)

専修大学・川崎市・富士通・かわさきFMが協定結ぶ  
「川崎ワンセグ」を開始。生田キャンパスに基地局を設け、ワンセグ放送をしていく。川崎市以外では、市総合防災訓練などで実験放送を行ってきた。

が中心になって「川崎ワンセグ」を開始。生田キャンパスに基地局を設け、ワンセグ放送をしていく。川崎市以外では、市総合防災訓練などで実験放送を行ってきた。



▲ 総合防災訓練に臨む福富研究室の学生たち

関係図書優秀賞(労働政策研究・研修機構主催)読売新聞社後援に選ばれた。著作は丁寧な議論がなされている完成度の高い研究書」と評価された。櫻井教授の専門は日本経済論、経済政策。



櫻井 宏二郎 経済学部教授  
櫻井宏二郎経済学部教授著『市場の力と日本の労働経済 技術進歩、グローバル化と格差』(東京大学出版会、2011年)が、12年度の「労働

労働関係図書  
優秀賞を受賞  
そのほか、9月22日からは市民ミュージアムでスタジオ・アズーロ展の広報映像を放送した。10月28日(日)にはJR川崎駅東口周辺で催されるカワサキハロウィンパレードの模様を放送する。

## 近江吉明文学部教授が 仏『フランス革命史年報』誌の学術委員に

本学の社会知性開発研究センター・

フランス革命史料研究拠点において、本学図書館所蔵「ミシェル＝ベルンシュタイン文庫」(以下、「ベル文」)史料の調査研究を精力的に進めた文学部歴史学科の近江吉明教授が、仏『年報』誌 Annales historiques de la Révolution française の発行母体となる「ロベスピエリスト研究協会(Société des Etudes Robespierriettes)」の「学術委員会(Comité Scientifique)」委員に抜擢された。



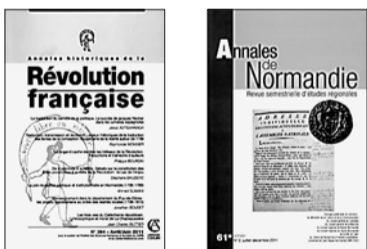
同研究協会(1907年創設)は、創設者がアルベール＝マティエで、G＝ルフェーヴルやA＝ソプールなど各時代のフランス革命研究をリードした人物が会長に就任した由緒ある研究機関。日本では、故・柴田三千雄氏(元東大教授)について2人目である。

近江教授は、2009年度より「日本私立学校・共済事業団」の学術研究振興資金を受けて、「ベル文」史料内の「フランスには存在しないフランス革命関連史料」の調査研究を、フランス側の研究者やアルシヴィスト(古文書学者)より協力を得ながら継続している。それらの成果は、各年度の『年報』(Annales des Etudes de la Révolution française et la Collection des documents de Michel Bernstein)にて仏文で公表され、フランスなど世界の主だった研究機関や文書館・図書館に贈られていて、本学「ベル文」の存在は世界各地に広められた。

このたびの同教授の委員就任は、これまでの地道な努力がフランス側において認められた結果である。また、同

教授は「ロベスピエリスト研究協会」の現会長でルーアン大学フランス革命史講座主任教授のミシェル＝ビアール氏とともに、仏『年報』誌(Annales, n. 364, Avril/Juin 2011)に「ベル文」史料の全容について紹介、M＝ベルンシュタインの本学図書館誌への寄稿文も転載された。

この反響は大きく、フランス側の各機関・研究者からの問い合わせが続いているが、それらの一つが今年11月26日の展示会「ミニ・コローク」(本学図書館主催)として結実することになった。こうした状況について同教授は、『ベル文』を世界に発信するとい



▲ 本学所蔵の「ベル文」の一部が掲載された仏『ノルマンディ』研究誌=写真右、仏『年報』誌には「ベル文」史料の全容が紹介されている=同左

う長年の懸案問題はどうか克服できたし、私自身も『学術委員』になるなど名誉な立場に立てるようになったが、それだけ、『ベル文』を所蔵している本学と関係者の責任がますます大きくなった。我々の姿勢がどうあるべきかが明確になった。中途半端な対応はもはや許されていない」と語り、不退転の覚悟を示すとともに、他大学にはできない世界への知の発信を「ベル文」を通してすべきとの抱負を語った。

## 「秋期日本語・日本事情プログラム」開講中

「秋期日本語・日本事情プログラム」に参加する国際交流協定校4校(米・ネブラスカ大学、アイオワ大学、オレゴン大学、アイオワ州立大学)の学生23人と、特別聴講生、一般学生4人が受講。12月15日までの12週間にわたり、日本語学習のほか、企業見学やホームビジットなどを体験する。



▲ 9月24日の歓迎会で

9月24日の歓迎会で、特別聴講生、一般学生4人が受講。12月15日までの12週間にわたり、日本語学習のほか、企業見学やホームビジットなどを体験する。

## 第13回育友会奨励賞

### 応募締め切り迫る

「対象主題」①学業(顕著なもの)②スポーツ③社会貢献④ベンチャー⑤その他本賞趣旨に沿うもの  
【表彰式】12月8日(土)、神田キャンパスで表彰式を開催します。  
育友会事務局 ☎03(3265)6299

Quality for You



MUFG

三菱東京UFJ銀行